

妊娠・出産を「記録する」ということ
—1909年～1960年の4種の助産録分析から

田間泰子 (大阪公立大学)

目的 助産録は、妊娠・出産の重要な歴史的史料である。同時に、妊娠・出産は統治や生命尊重など様々な観点から管理の対象となってきたことから、日本では既に江戸時代に懐胎届制度を実施しようとした藩が複数あった(沢山 1997、太田編 1998)。明治時代になると、政府は戸籍法と衛生行政により人口掌握を図った。しかし、医制や医師法によって明治期に出産・死産・流産の届出や診療録を義務付けられた医師と異なり、産婆は産婆規則が制定された後(1899年)も助産の記録に関して法の定めがなく、規制は各道府県に委ねられた。産婆が具体的項目につき全国統一の法規制を受けたのは、第二次世界大戦後の1951年に保健婦助産婦看護婦法施行規則が改正された時で、これにより現代の助産録の原型が定まった。したがって、戦前には、産婆が妊産婦の状態と助産行為をどのように記録するかは、諸要因に影響を受けつつ産婆が選び取る実践であり、現代に比して多様で変容し得たと推測される。明治政府により出産の大半を取り扱う専門職として養成された産婆は、「新産婆」として分娩姿勢や衛生など出産に関わる新たな文化の普及に努めた(安井 2011、木下 2013)。本報告は、産婆たちの妊娠・出産・産褥・新生児へのまなざしにつき、戦前の助産録を主とする分析により、その一端の解明を試みる。

分析視点 フーコーの生政治とエイジェンシーの概念を念頭に置きつつ、エスノメソドロジーにおける work としての科学研究から示唆を得た。参与観察不能な史料の分析視点として、専門職共同体で共有される知/世界の視方に重要な役割を果たすフォーマット(様式)とそこに記入されるエントリー(記載内容)を手がかりにする。

分析対象 4種の助産録、(1)三重県のある助産所の産家録A(1910-1925年、1,186件)とB(1925-1935年、533件)、(2)京都府のある市の産婆組合が市から請け負った貧産婦助産取扱記録(1926-1931年、580件)、(3)大阪府のある助産所のA出産取扱簿(1918-1960年、11,774件)とB入院者名簿(1938-1955年、569件)。(1)と内容の重複なし)、(4)滋賀県のある助産所の助産録A(1935-1951年、986件)、B(1951-1952年、65件)、C(1952-1960年、379件)である。(1)と(4)はフォーマットの違い、(3)は史料名称の違いによりさらに下位に分けた。補足資料として、戦前の産科医による産婆学教科書と戦後の受胎調節実地指導票を参照する。

結果1 フォーマットに関し以下を指摘できる。助産録の比較では、①かなり長期間一つの助産所で同じフォーマットが使用され続ける傾向があり、戦後の紙不足の時期には自ら枠線を引き、1951年の施行規則改正後も1960年代まで継続して使用されるなど枠組みとしての強い力があった。②書式としてのフォーマットが無いのは三重県A、時期的に最も早く医療的フォーマットをもつのは京都府で、求められる医療情報の詳しさには粗密がある。③京都府・大阪府・滋賀県の史料から、大正時代末から昭和以降、道府県の産婆組合単位でフォーマットがある程度共有されていた可能性がある。④夫・配偶者・戸主は限られた情報しか必要とされていないが、子どもの私生・公生欄がある場合があり、戸籍制度との結びつきは滋賀県Aから三重県ABまで強弱がある。なお、教科書との比較では、産科医が要求する諸情報の詳しさに比して、1951改正までフォーマットは総じて大まかである。また、受胎調節実地指導票は、中絶・避妊を含む、その夫婦世帯の生殖まることが対象となる点で大きく異なる。

結果2 エントリーに関し以下を指摘できる。①書式のない三重県Aに江戸時代の診療録との共通点が見られる。②フォーマットとエントリーの不一致が様々な形でみられる。例1)京都府「産褥経過摘要」「公私」「男女」「初生児の体質」「最終月経月日」ほか。例2)滋賀県Aで計12回の診察を想定。例3)教科書では大正時代には遺伝その他疾病等について近親者・家族・本人の情報が注意喚起されるが、フォーマットには1951年以降に現れる。エントリーには大阪府で1941年9月から現れる。③エントリーにおける個人差は少ない(例:京都府)。

考察 明治から大正初期まで近世の家意識が助産録に見られるが、同時期の教科書には西洋医学的な女性本人の身体への詳細な関心が存在し、フォーマットは明治以降の戸籍制度との関連も一定保ちつつ、女性本人への一定の関心を示すものとなった。その後、優生思想と人口政策の反映として近親者・夫や女性本人の既往歴への関心がエントリーで生じ、戦後にはそれらを受け継ぎつつ女性本人への強い医学的関心が反映されたフォーマットとなった。受胎調節実地指導票と呼応する要素があり、戦前戦後の連続/不連続性と共に今後の課題である。

(キーワード: 助産録、産婆、妊娠、出産)